平成 28 年 10 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 28 年度第 9 回

話し方のポイント

今、暫くの間、沈黙をしました。私は講演をする際に、こういう実験を時々します。10 秒 20 秒だと、しーんとしています。30 秒ぐらい経つと会場がざわつき始めて、1 分経つと雰囲気が変わります。大分前ですが、或る会場で壇上に上がった時、若くて威勢のよい人が多かったのでガヤガヤしてお喋りが止まらない。そこで、オゥーーと大声で発声をしたことがありました。その時の会場の雰囲気で、暫くじっと黙っていたり、大声を出したりします。それと、会場の大きさにあわせて声を出すことも意識しています。

やはり主催する側は聞く人に対して、事前に聴講するマナーを伝えておく必要があると思います。それがきちんと伝わっていない場合は、聞く人ひとりひとりの良識に従ってということになります。

もう一つ、講演をする際に、以前聞いている人の中で態度の悪い人が一人いると、そのことに我慢が出来なくて帰ってしまうこともありました。今考えると、他の方には失礼なことをしたと反省しています。最近はさすがに変わりました。例えば、昨年の社稷祭で講話をした際、目の前に座っている学者風の人が退屈そうに欠伸をしたのです。そこで、わざと後ろの方に向かって「欠伸をされた方がおられますが、眠い方はどうぞ外に出てお休みになって結構です」と軽い口調で言いました。更に、この人はどういう話をすれば真剣に聞いてくれるかと考えて、色々な方向に話を飛ばしてみました。そうしましたら、その方は下ネタに興味を示したので、話題を広げて話しをしたらメモを取りながら聞き始めました。人を叩くのではなく、柔らかく話をすることで一緒の仲間になって聞いてくれる、そういう雰囲氣になりましたので良かったなあと感じました。

ですから人前で話をする時は、聞いておられる方の表情を見ながら話を進める工夫をされるとよろしいでしょう。ちょっとくすぐりを入れてみると、後の話が楽になります。これは一対大勢の場合だけでなく、一対一の時も同じです。営業の仕事であれば、相手の表情を見て、特に眼がキラキラ輝いて真剣に話を聞こうとしていれば、トントンと話が上手くいきます。翻って自分の眼はどうか、輝いて人の話を聞いているか、お考え戴くとよろしいでしょう。

今、私が意識しているのは中村天風先生の話し方です。以前は、私は堅い話しかしませんでした。中村天風先生は気楽に親しみやすい話で、聞く人がのんびり聞ける話し方をされました。私もそれを心掛けて、〝何となく役に立ちそうだからメモしておこうかな…〟〝そういえば、以前にこんな話を聞いたなあ･･･〟と、聞く人の心に残るような話をするように、ここ数年は意識して変えています。

学びは人をつくる

先程、猪瀬理事長が「70 歳を過ぎたら、物事がだんだん見えてくるようになった」と言っておられました。ただし、「学びを続けている人が」という前提条件をつけるべきだと思います。更に理事長は、「人生を楽しむが良い。くだらない事で心を使わないで、前を向いて楽しい事をやれば良い」とも言われました。これはその通りだと思います。齢をとると、それまで楽しかった事を楽しいと思わなくなってしまう人がとても多いように感じます。

今日のテーマは「学びは人をつくる」です。学んだ結果、何が出来るか。以前、中斎塾フォーラムの前身の悟道会で、或る会員さんが「悟道会に来て話を聞いていると、お風呂に入っているような感じで非常に氣持ち良くて、風呂から上がれば忘れてしまうのだけれど、しかし後に何かが残る。自然と、自分自身に馴染んで身体の中に溶け込んでしまうような言葉が身に付いてくる」と言っておられました。

皆さんも中斎塾フォーラムで話を聞いている中で、何か一つ、自分でこれは良いなと思う言葉を見つけて下さい。私の場合は、論語の「利に放（よ）りて行えば、怨多し」です。自然と身に付いて来る良い言葉は、自分自身の判断基準のもとになって、人生の大事な決断の場面でふっと浮かんできます。判断基準がしっかりしていれば、とんでもない事態が起きてもスッと判断ができます。そして判断した後は、決意を固めて実行するだけです。実行していく時には大概障害が起きますから、それをはねのけて進むには胆力（肝を練ること）が必要です。

私は来月の金鶏神社の社稷祭で、詩吟の献詠をさせて戴くことになりました。吟題は安岡正篤先生の書かれた漢詩・和歌の中から選んで下さいとの依頼でしたので、安岡正篤先生の漢詩の本を探しましたが、神保町の本屋にもありませんでした。郷学研修所に 1 冊だけありました。その本をお借りしましたので、皆さんに回覧致します。安岡先生は漢詩を作るのは余技だとおっしゃって、本にはされませんでした。ですから回覧している本は、お弟子さんたちが散逸している安岡先生の漢詩を関係者から集めて、先生ご自身に選んでもらい、本（非売品）にして関係者に配ったもので、関係者のお一人から郷学研修所が譲

り受けたものだそうです。

この本の中から漢詩と和歌それぞれ２首ずつ選んで、斯文会の石川忠久先生に御相談して、中江藤樹を読んだ漢詩と和歌に決めました。

（漢詩）三遊大洲謁藤樹先生銅像　　安岡正篤作

三たび来(きた)る　賢聖の地　簇々(そうそう)として暮山青し

無限　心中の事　川に臨んで古經を講ず

（和歌）大洲にて藤樹先生像を拝す　　安岡正篤作

夢に見し　聖の跡に　尋ね來ぬ　その如月の　梅薫る朝

ちなみに「その如月の　梅薫る朝」とは、石川忠久先生曰く、西行法師の「その如月の望月の頃」からとったのだろうということでした。

社稷祭ではこんなふうに吟じてみたいと思っています。

――（吟詠）――

私は詩吟を始めて１０年になりますが、何とか形になって来ました。一つのことをずっと学んでいると副産物が生まれます。私は詩吟を学んだおかげで音痴が治りました。学生時代の友人とカラオケを楽しむようになりました。これも学びの効用だと思っています。ですから学びとは、何も難しい本を読むだけではなくて、日常生活の中で何でも学びになると思います。論語の「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し」の実践だと考えていただければよいと存じます。

もう一つご紹介する本は、『修身教授録』です。12 月 3 日に井澤幹事が会長を務めておられる前橋木鶏クラブで講演をさせて戴きますが、前橋木鶏クラブでは、森信三先生の書かれた『修身教授録』をテキストにして学んでいました。

『修身教授録』は人間教育の父と言われた森信三先生が昭和 12 年～13 年の 2 年間、大阪の師範学校（現・大阪教育大学）で修身の授業を行った際、教科書を使わずにご自分の言葉で話された、それを口述筆記した講義録です。人生を生きていく上で大事なこと、人間とは如何に生きていけばよいか等々について多くの金言が書かれていて、後世に生きる人々にとても大きな影響を与えています。

その中から幾つかご紹介します。

・人と人との関係

利害打算の観念を離れていればこそ、叱るべき時にはよく叱ることができ、また褒めるにも心から褒めることができるわけです。

褒める時には真剣に褒めなさい。打算で褒めたのでは本物の褒め方にはならないから、心には伝わらないということです。

・最善の人生態度

おおよそ我が身に降りかかる事柄は、すべてこれを天の命として謹んでお受けするということが、われわれにとっては最善の人生態度と思うわけです。

この言葉に関しては、私は受け取れないことが一つだけありますから、なかなかすべて素直に受け取るわけにはいきません。

・教育

教育という織物の場合には、教える方と学ぶ方と、双方の気持ちがぴったり合わなければ、いい織物は出来ない。

教育は学びであり、教える側と教わる側の氣持ちが一体化しないと役には立たないと言っておられます。言葉の面だけでなく態度、身体で味わってくれなければいけない。

森信三先生は西晋一郎先生・西田幾多郎両先生に学んだ、日本で右に出る者はいない哲学者であり、教育者でもあります。森信三先生の本を読むと、思わず背筋がピンと伸びて来ます。本を読んだり人の話を聞いて自然と腰骨が立って背筋が伸びる、聞く側としてそういう体験を持ったなら、その本もその人物も本物だと言えます。話をする側も背筋がピンと伸びて、聞いている人も腰骨がしゃんとしてくる、それが話す側と聞く側が一体化している状況だと思います。

恒例の質問

では前半の残りのお時間で、さらっと恒例の質問を致します。ここ１ヶ月くらいでお考え下さい。

○　良い日が続いたと思う方

○　嘘をほとんどつかなかった方

嘘をつかないと、朝すっきり起きられます。

○　１ヶ月間、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○　１ヶ月間、健康法をずっと続けておられる方

○　昨晩寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方

○　１ヶ月間、我ながらよく自分磨きをやったと思う方

論語を現代に置き換えて読む

本日の論語の解説は、憲問篇 43～45 です。

【四三】子張曰く、書に云う、高宗　諒陰　三年　言わずとは、何の謂ぞやと。子曰く、何ぞ必ずしも高宗のみならん。古の人　皆然り。君薨ずれば、百官己を総べて、以て冢宰に聴くこと三年と。

老境にいった孔子に対して、若くて少し突っ張った弟子の子張が質問をしています。

高宗とは殷王朝中興の祖、武丁です。

子張が、「殷の君主であった高宗は父親の喪に服している三年間、何もものを言わなかったと書経にあるが、これはどういうことでしょうか」と聞きました。

孔子が答えました。「それは何も高宗だけではない。昔の人は皆、同じように三年間は喪に服したのだ。君主が亡くなったら、役人たちは自分の仕事をきちんと執り行い上司の指示を仰ぎながら三年間を過ごすものなのだから、たとえ皇帝が口を聞かなくても心配はいらない。」

自分に置き換えて考えると、自分の両親が亡くなって三年間の喪に服す。これは今の時代はどうでしょうか。例えば家業で、大黒柱の父親が亡くなって自分が後を継ぐことになった場合、三年間喪に服して何もしなかったら家が潰れてしまいますね。

「百官己を総べて、以て冢宰に聴く」(役人が全部自分のやるべき職務をきちんとやって、最後は総理大臣にきちんと決断して貰えばよい)・・・という部分を今の日本で考えると、どうでしょうか？　役人が自分の仕事をきちんとやれるかというと、そんなことはありませんね。特に今、都政は小池劇場がくり広げられていますが、そこに日本の国の役人の姿がよく表れていると思って見ています。日本の国は腐っています。3.11 の時にも感じましたが、それを裏付けるようなことがどんどん出てきます。これが行き着くところは、日本の国の崩壊であろうと思いました。

先日、タイのプミポン国王が亡くなり、タイ政府は一年間は国全体で喪に服すことを発表しました。テレビの報道で、目を真っ赤にして泣きはらしている国民の映像が流れると同時に、国王はとても国民に慕われていてクーデターやテロが起きた時に国民の精神的な支柱になっていた、と解説していました。それを見て、タイの国はそういうものかなと思いました。

そこで皆さんに、お考え戴きたいと思います。この間、東京フォーラムの酒井代表幹事がグループウェアで、「最近は新聞も本も電子機器を使って読むようになって、活字離れをしてしまっている。これで良いのか、考えてしまう・・・」とコメントしておられ、それ

に対して私は、時代の趨勢なので普通だと思うと書きました。するとご本人から、ネットは知りたい情報を並べてくれるが、知らなくちゃいけない情報は自分で取りにいかないと目の前に出て来ない。ネットの情報も何かにコントロールされているんじゃないかと感じませんか？　たまには本屋に行って自分の目で本を選んでみます・・・という内容の返信がありました。

世論の誘導については、今は国家レベルで国民を誘導しようとすることはごく当たり前に行われていることですし、尚且つ、各国の政府や国民を自分の思うままに操ろうというグローバル企業・組織の存在をひしひしと感じます。ですから今、我々が見たり聞いたり考えたりすることは、世界的な規模で誘導されている。ちょうど、ゆでガエルと同じ状況だと思って戴くとよいと思います。

水が入った釜の中に浸かっているカエルは、火にかけられても最初は氣がつかない。だんだんぬるま湯になっておかしいと思うけれども、まだ大丈夫だろうと楽観している。そして熱湯になった時には、もう飛び出すことが出来なくなってゆで上がって死んでしまう。・・・これがゆでガエルです。

国民と国家、グローバル企業の関係でそれを考えると、この国、或いはこの地域の国民はうるさいから消してしまえ！　という意志が強烈に働けば、実際に行われると考えています。その地域にいる人たちはゆでガエルになっているから、危険だと思った時には間に合わないで、あっという間に殺されてしまうことになります。事例をいくつか申します。

中国で大爆発がありました。人為的なミスが原因で、かなりの人が亡くなったという報道がありました。これはマスコミには出ていません。習近平さんは「皇帝」を目指しているとマスコミでは囁かれていますが、もしかすると本氣で皇帝になろうという動きをしていて、実現するかもしれません。習近平さんを引きずり下ろそうとしている軍人達が或る都市に集まって常駐していた。それが爆発によって全員が殺された。人民も巻き込まれて亡くなった。数千人規模で軍人と民間人が亡くなったという情報が伝わってくるけれども、報道はされない・・・という話があります。

また、中国で大陥没があって、一つの町がそっくり大きな穴の中に落ちて、多くの人が亡くなっています。大陥没の原因は不明ですが、世界全体では5000ヶ所以上の大陥没が起きています。犠牲者は数十人であったり、数百人であったり、町が一つまるごとなくなってしまったという例もあります。なかなか報道はされませんが、ユーチューブで検索すれば結構出てきます。

もう一つ、中国の上海の話です。上流にダムがあって、決壊すると町が水没して死者がかなり出ることが分かっている。そこで、町の周りにぐるっと万里の長城のような堤防を

築いて、堤防は遊歩道として整えられています。本当のところは上流からの水を止めるための堰なのですが、国民には観光のために遊歩道を作ったという説明をしている。

ですから世間一般に流れている報道の裏は何か、真の目的は何かを考える癖をつける必要があります。ゆでガエルが身を護るには、報道されている話は、誰がどんな目的で流しているのか考えることです。考え出すと色々なものが見えて来ます。是非ともそういう癖をつけて下さい。

【四四】子曰く、上 礼を好めば、則ち民 使い易し。

孔子が言うには、上に立つ人が礼を大事に守れば、国民はそれに感化されて秩序を守るようになり、政がうまく運ぶようになる。

「使い易し」という言葉が引っかかります。上に立つ人間が、下の人間を使うのに動かしやすいと解釈するのは間違いです。下の人は上に立つ者の真似をするから、上に立つ者はよくよく言動に氣をつけなさい、と捉えてください。

この論語から、三越事件が浮かびました。ワンマン社長の愛人が会社に嘴を入れるようになる。女帝と言われるようになって、幹部社員も取引業者も女帝参りをするようになった。そして、あの社長解任劇に繋がります。

ヤマト運輸はもともと三越の運送を担う業者でしたが、三越の体質を嫌って縁を切る際、宅急便を考えついて現在のクロネコヤマトが誕生していきました。これは一つの物語になっています。ヤマト運輸は三越と闘い、その後は日本の国家の仕組みと戦いながら、大企業に成長したわけです。一つの企業をずっと調べていくと、少なからず何処かと闘っています。それを敢然とはねのけたところに発展のチャンスがあると思います。

「上 礼を好めば、則ち民 使い易し」・・・上に立つ人の好むものに周りの人間は自然と染まって来る、という部分で考えると、会社の社長がゴルフが大好きだったら幹部社員は皆、ゴルフをやるようになるでしょう。西郷隆盛は目から鼻に抜けるような頭の切れる才子で、島津斉彬に見い出されて必死になって自分を磨いた結果、実力ともに世に伝わる西郷隆盛という人物になっていった。しかし島津斉彬が早世した後は、むしろ疎んじられるようになります。一方、大久保利通は何とか世に出たいと思っていたので、島津久光の趣味だった囲碁を習い、気に入られて、明治維新の中心人物になっていったという逸話があ

ります。まさに「上　礼を好めば」を実行したわけです。自分が師と仰ぐ人間、会社の社長や創業者が好むものを自分もやってみると、世の中に出ることがスムーズにいくかもしれません。

人物が世の中に出るためには上の人間・仲間・下の人間、それぞれから押して貰わなればなりません。上からは、目上の人から期待されて引っ張り上げて貰えるような魅力や知識を持つことです。次に仲間ですが、同僚はだいたい足を引っ張ることになりますから、少しくらい間が抜けているくらいでよい。しかし、〝あいつのこういうところは光っているな〟と応援してもらえるような能力を持つ必要があります。下からは、この人に付いて行けば間違いないと思わせるような能力が必要です。

【四五】子路　君子を問う。子曰く、己を修めて以て敬すと。曰く、斯の如くなるのみかと。曰く、己を修めて以て人を安んずと。曰く、斯の如くなるのみかと。曰く、己を修めて以て百姓を安んず。己を修めて以て百姓を安んずることは、堯　舜も其れ猶諸を病めりと。

子路は乱暴者で常識を知らないというイメージがありますが、かなりの人物です。子路と孔子の問答は非常に楽しいですね。

子路が「君主はどういうものか」と孔子に聞きました。

孔子が答えました。「日頃から自分を磨いて行いを正しくし、尚且つ慎み深くしなさい。」

子路が「たったそれだけですか」と聞きました。

孔子が答えました。「お前が自分を磨いて行いを正しくすれば、周りの人々が安心して生活できるものだ。」

子路がまた聞きました。「それだけで良いのですか。」

孔子が言いました。「自分を磨いて天下の人民をことごとく安心させられることなど、簡単に出来ることではない。理想の君主であった堯・舜ですら実現することが難しかったのだ。」

お前は何を言っているのだ。顔を洗って出直して来い！　と孔子が子路に説教をしている、良い師匠と良い弟子という関係が伺える問答です。

何度も申しますが、論語は今の時代、又は自分自身のことに置き換えて解釈をして下さい。先ほど申しましたように、最近は小池劇場が面白くて、私は論語を見るたびにそれに置き換えて見ています。

豊洲市場問題で書面で回答した石原慎太郎元知事に対して、小池さんが「これまでの作家生活や都知事を続けたご功績を無にならさないようにしていただきたい」と、何とも穏やかな言い方をするものだと思いました。恥かしくないのか！と言いたい氣持ちを腹に収めながら、傷をつけない様にさらっと辛辣なことを言っています。大人だと感じました。小池さんの先に見えるのは内閣総理大臣の椅子でしょうが、なぜ内閣総理大臣をやりたいのかと思います。

日本の国は潰れる方向に向かって進んでいます。文明法則史学で見れば、今は西洋文明が衰退し、次の東洋文明に移行する文明交代期です。大きな文明が転換する時は、国家が潰れたり誕生することはごく当たり前、もの凄く乱れる時代の真っ只中にいるのです。大きく変わって来るのは、通貨を見ればよいでしょう。お金は、もうお金としての機能を果たさなくなっています。それから心が荒んで来ます。資本主義も社会主義・共産主義も終わりです。全部、国家が滅びる方向に進んでいるから、ほとんどの国はがらっと中身を変えるでしょう。

大きなうねりの中で、国がおかしくなって来ています。落ちる所まで落ちて、水面下に着いた時に、ポンと跳ねて浮かんでくる。その浮揚力で新しい主義が生まれ、新しい文明も発生し発達すると思います。そしてそれはおそらく日本文明であろうと、世界の学者がだんだん絞って来ているところです。

日本の文明は他の文明と違って単体の独立した文明で、非常に変わった国です。ただ、今の日本人はそこらへんが見えるようで見えていない。かなり落ちないと自覚できないと思っています。

ですから当然、日本は破綻・破産すると思っています。それから又、復興していく。日本が先に復興していくので、その足取りを見ながら他の国が追いかけるようになっていく。そういう時代が数十年単位、おそらく 30 年くらいの動きの中で見えてくると私は思っています。